

法医学

担当指導医師

●本学

教授：出羽 厚二

講師：高宮 正隆

基本方針：

死因究明・身元確認について実地に経験し、死体検案、剖検症例を把握することによってヒトが社会的存在であることを認識し医学的・法的・制度的に法医学を理解できる。

実習内容：

1.司法解剖

期間中約 10 体以上の症例があると考えられる。全例に参加し自らメスとピンセットを動かす。

2.死後画像診断

解剖前の CT 画像と解剖所見を比較する。

3.死体検案

県警検視班に同行して検案、期間中約 50 回以上の出勤があると考えられる。解剖スケジュールを考慮して可能な限り同行。

4.組織標本作成，写真撮影技術の習得

5.担当症例に関して講座内で発表

6.薬毒物検査，血中アルコール濃度測定，CO-Hb 測定

7.県警本部，科学捜査研究所，海上保安庁等見学

8.大規模災害に備えた備品整理とマニュアル作成

期間中訓練があれば参加

意義：

固定されていない生の臓器を見て解剖の復習をする最後の機会であり、解剖前 CT 像との比較は良い学習機会になるであろう。様々なヒトの生活状況と死亡状況を見ることは将来臨床医となったときに役に立つと思われる。家庭医・救急医・病理医志望者には良い実習と思う。

注意：

検案等の現場に行き、家族、他の職種の方と接する。時間厳守、過剰なまでの礼儀正しさと身だしなみを求める。24時間拘束される。腐爛した死体も多い。熱意のある者だけ受入予定。喫煙者、茶髪(元茶髪)、ピアス、ネイルをしている者は絶対不可。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	個数	使用目的
実習用機械	環境放射線モニタ (PA-1000Radi)	2	大規模災害対応訓練
実習用機械	液晶プロジェクター (EBX14)	1	症例検討 (小グループでの)